

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ちばけんりつさくらこうとうがっこう				②所在都道府県		千葉県	
28～32	①学校名	千葉県立佐倉高等学校				②所在都道府県		千葉県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模			
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	計
普通科	283	287	323		893	283	287	323	893
理数科	0	0			0	40	39		79
⑥研究開発構想名	日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成								
⑦研究開発の概要	普通科生徒全員を対象に、学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」を設定する。「GLアクティブ」「GL探究」において実施する国内研修、海外研修を通してグローバルな社会課題解決に向けた研究と発表を行う。また、大学や企業等と連携し、留学生との交流や国内外の研修を通して生徒の異文化理解と情報発信力を高める。								
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>地球に住む人間同士が文化的交流を通じて互いに信頼し、協力し合える世界を創造するには、物事の本質を地球規模で捉え、行動するリーダーが必要である。本校では、日本の歴史・伝統・文化を理解するとともに、グローバルな社会課題に対する関心、探究意欲、問題解決力、コミュニケーション能力を高め、グローバル社会を日本人として生きる力と異文化を理解する力を身に付ける。それにより、多文化共生社会を阻む課題を解決し、より良い国際社会を構築するグローバル・リーダーを次の3つの柱で育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① グローバル・リーダーを育成するための創意工夫ある教育課程の編成 ② グローバルな課題に対する関心と意欲及び探究心等を育成する課題研究の実施 ③ グローバル・リーダーを育成するための海外研修や海外留学等の推進 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p><課題1>本校生徒は、大学受験には強いが、グローバルな視点での見方や考え方、異文化に対する理解、実際に海外等で使える英語力等はあまり高いとは言えない。</p> <p><課題2>毎年オランダを始めとした海外派遣や留学を行っているが、その募集人数は少なく、地域や日本の歴史・伝統・文化等を海外で紹介することは十分にできない。</p> <p><課題3>本校生徒は、海外の大学に入学する者はほとんどいない。また、普通科の生徒では、海外での研究成果の発表やディスカッションをする機会は少ない。</p> <p>(ア) 仮説1：普通科全体を対象に、グローバル・リーダー育成を目的とした教育課程を編成し実施することで、グローバルな社会課題に対する関心と意欲、探究心、コミュニケーション能力等が身に付く。</p> <p>(イ) 仮説2：メンバーを選抜して、従来のオランダ、オーストラリアのほか、イギリス、ドイツなどの伝統を重んじる国や、ASEANの中核都市であるシンガポール等への海外研修を実施することで、異文化を理解し、多文化共生のより良き未来を指向し、国際社会を牽引する資質や能力が身に付く。</p> <p>(ウ) 仮説3：グローバルな社会課題のうち、国際間での文化や社会の対立を排除し、その融和の実現を図る探究をすること、および海外の大学生や高校生に英語で発表することで、課題を解決する能力と態度が身に付くとともに、日本の歴史・伝統・文化を世界に発信し、国際社会を牽引するリーダーとしての資質や能力が身に付く。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>1年目は研究成果をまとめた研究報告書を作成し、全国のSGH校及びアソシエイト校及び県内の高等学校に配付する。2年目以降はそれに加え、近隣の小中学校も対象に含めてSGH課題研究発表会を行い、意見交換会を行う。</p>							

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 グローバル社会が直面している、国際間での文化や社会の対立を排除し、多文化共生社会の実現を図る課題研究を行う。研究課題の分野例としては、太古より多くの文化を受容した日本が発信する多文化共生の取組、島国として独特の習俗が形成された日本が発信する文化的融合の取組、世界を席卷する日本の産業文化・ビジネスを通じた交流の発展、官民併せて積み上げられてきた日本の国際貢献の次段階などである。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 総合的な学習の時間を「GL探究」として実施する。1年次は基礎的な事柄や知識を整理しグローバルな社会課題について考察する。2年次から課題研究を行う。 学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」を設定し、その中で地歴公民の各科目の代替科目として、グローバルな視点を重視した学校設定科目を設定し、履修する。 学校設定科目「GLアクティブ」を設置し、日本の歴史・伝統・文化に関する事柄やグローバル社会における多様な課題について、大学や企業、研究機関の専門家、更に現地の指導者・体験者等を講師として招いたり、TV会議システムによる遠隔講義を行ったり、直接大学や企業、研究機関若しくは現地調査に出かけたりする講座等を実施する。 国内で海外を体験できる研修施設において、異文化理解や社会課題に関する研修を行うことにより、期待されるグローバル・リーダーの役割についての意識を高める。 海外で研修を実施し、課題研究の成果を発表し、ディスカッションすることにより、異文化を理解し、日本の歴史・伝統・文化を世界に発信し、国際社会を牽引するリーダーとしての資質や能力を身に付けさせる。 大学・企業・研究機関と連携してグローバル社会に対する理解および課題意識の醸成を図る講演会や公開講座等を実施する。 生徒・保護者へのアンケートを行い、グローバル社会に対する意識の変容を調査するとともに、研究発表件数や発表会での入賞者数なども検証し、SGH運営指導協議会において、取組状況や成果等について評価し、次年度以降の改善に取り組む。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 普通科の教育課程において、世界史Bや政治・経済をはじめとした地理歴史や公民の必修科目等について、一部学校設定科目で代替する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」を設定し、その中で英語の科目の代替科目として、グローバルな視点を重視した学校設定科目を設定し、履修する。 英検などの資格習得やネイティブの講師や留学生などとの交流による英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成を図る。 地域・同窓会と連携して、動きの速い世界経済や国際情勢に俊敏に対応できる力を養成する。 生徒、保護者へのアンケートを行い、資格習得状況、留学希望者数の変化、スーパーグローバル大学への進学者数なども検証し、その結果等について評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 普通科の教育課程において、コミュニケーション英語Iをはじめとした英語の科目について、一部学校設定科目で代替する。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 平成27年度に整備済みの校内Wi-Fi環境を生かし、PC等を使った課題研究での探究活動やICT機器を利用したアクティブ・ラーニングに取り組む。</p>
<p>⑨ そ 他 特 記 事 項</p>	<p>平成27年度にスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイトに選定されたことにより、従来の国際交流事業を進展させ、語学力及びコミュニケーション能力の育成・向上のために新企画を開始するなど独自のグローバル人材の育成を進めている。 平成25年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、国際化、グローバル化に対応した理工系リーダー育成の実績を持っている。ここで培った課題研究の手法や育成ノウハウを生かし、SGH事業に取り組んでいく。</p>